

2024年3月期第2四半期 決算説明会 質疑応答要旨

【業績】

Q: 24/3 通期予想の上方修正において、車両増産見込みを一部反映と説明がありましたが、詳細を教えてください。

A: これまでの通期予想は、OEM の年初計画に対し 1 割減のリスクを織込んでいましたが、第 3 四半期は、リスク計画からの OEM 車両内示上振れ分の 7 割を今回業績予想に反映致しました。これにより、第 3 四半期は OEM 年初計画に対して 3%減、第 4 四半期は 1 割減のリスクを織込んだ前提としています。

Q: アジア地域の売上が落ちている一方、利益は増益である理由を教えてください。

A: ASEAN は増収のもの、中国で売上が落ち、地域全体で減収となりました。売上が落ちた中、増益となったのは、為替の円安効果と昨年計上した韓国子会社の事業撤退に関わる構造改革費用がなくなったことによるものです。

【中国市場】

Q: 中国市場の見通しと、デンソーにおけるビジネスチャンスや懸念点について教えてください。

A: 中国経済全体に減速感があり、車両販売も落ちています。構成としては、EV が増えている一方で、ガソリン・HEV は減少。競争力ある EV を積極展開している BYD 等の華系は好調な一方で、EV を効果的に投入できていない華系は落ち込んでいます。当社と取引が多い日系・欧州系の OEM も不振であり、当社売上也落ちしていますが、利益の落ち込みは少なく、規律を持ったリーナな経営ができていると考えています。中期的には華系メーカーへの販売を強化し、外資と華系でバランスを取るという事業展開をしていきます。

【全米自動車労働組合ストライキ】

Q: UAW ストライキの影響について、どのように見ているか教えてください。

A: 当社への影響は約 100 億円の売上減と見ており、今のところ甚大な影響はないと考えています。

【研究開発費】

Q: 研究開発費の絶対額は、為替の見直しにより増加しましたが、売上高比率は下がっています。研究開発費に対する考え方を教えてください。

A: 研究開発費は、CASE 領域に積極的なリソース投入を続けております。一方で AI を使った自動化や開発時におけるシミュレーションの強化など、ソフト開発の合理化が着実に効果を出しています。今後も事業成長の源泉として、売上高比率 9%程度を目線に投入していきます。

以上